



## Term 4 の活動【算数編①】

今回は、PNG に来てまさかの算数を教えることになったので、そのことについて書いていこうと思います。私は中学英語教師なのですが、なぜ算数を教えることになったのか。1つ目は、PNG の子どもたちの算数の能力が特に低いから。2つ目は、JICA や日本政府などが支援を行っている算数教科書を使用しているが、現地の多くの教員が有効活用できていない現状があったからです。今は、算数を教えることに必要性とやりがいをとても感じています。

**算数担当学年** : 2A **教室** : 旧教室 (黒板あり)

**児童生徒数** : 60 名以上 (生徒はノートと筆記用具のみ持っている)

**教材** : 教科書あり。(しかし複数名でシェア。学校保管→持ち帰れない)

**授業時間** : 基本 10:30~ (30 分間) しかし、日によって早く教えたり、長く教えたりすることも。

**Term 4 授業内容** : 掛け算 (6 の段~)、三角形と四角形、大きな数 (1000 以上)

☆毎日算数の授業があります！

算数を教える事は初めてだったので、教科書と睨めっこしながら教材を作成して授業に臨んでいます。今回は、2A の生徒の様子、活動を通して見えた成果と課題を書いていこうと思います。

### ① 2A の様子

グレード 2 も 7 と同様に、異なる年齢の生徒が混在しています。しかし、低学年ということもあります。ほとんどの生徒が 6 ~ 8 歳になります。そして、高学年と比べて授業の出席率は 90% 以上。しかし元気 200% で、集中力がすぐ切れてしまうのが現状です。授業を受ける姿勢が悪かったり、(寝転がる奴いる) 本を読んでいたり、お隣とお喋りしていたり、寝ていたりすることが日常茶飯事。学級づくりとモチベーション向上の大切さを痛感します。



### ② 活動 (掛け算の取組)

掛け算は 6 の段から教えることになりました。掛け算を教える上で、重視して点は 3 つ。①「楽しく学ばせること」②「声に出して、九九を覚えさせること」③「視覚的教材を多用して、掛け算を足し算と引き算と区別させること」になります。

#### 【教員 ⇄ 児童の授業】

教員の一方的 or 児童にやりっぱなしの授業が多い印象でしたので、まずは教員による「発問」を行い、児童の発言を多くさせるようにしました。この学級は元気な学級ということもあります。反応がとても良かったです。間違えを恐れず、どんな問題でも答えてきます。間違えることもありますが、「Good try!」と褒めて、どうしたら正解にたどり着くかみんなで考えます。また、問題演習のときは机間支援を行い、答えを 60 人一人ひとりの学力を確認するチャンスだと思い、時間をかけています。(1 時間余裕で越えます…。)



質問に対して、手を上げて答えさせたり、みんなで揃えて答えさせたりと、全員が参加できるように心がけています。手を上げるときは、私を指して～！と言わんばかりに、「ミスター～！！！」と叫んでいます(笑)ただ、このやる気も波があるので、コントロールが大変です…。



とても元気よく歌います！

### 【九九の歌を使って練習】

YouTube にある「九九の歌 英語 ver.」を使って、授業の最初に復習として、最後に確認として活用しました。PNG の子どもたちは音楽が大好きなので、とても元気よく歌い、歌詞を覚えようとします。1 の段や2 の段はとても大きな声で歌いますが、しだいに自信がなくなったり声が小さくなったり、ノートに書いてある表を見ながら言ったりする子が出てきます。また、九九の書いたカードを出して、ランダムに答える活動では、順番ではないので答えるのに詰まる子どもが続出…。音楽の力を借りてテンポよく覚えるのも効果的ですが、どんな九九の式を出されても瞬時に答えられる計算の早さと正確性を鍛えることが課題だと思いました。それでも、「九九の歌」は子どもたちに人気で、今日は歌わないの？とか言っていたり、授業が終わっても口ずさんだりする姿があったり、他のクラスにもいつの間にか広まっていたりしたのは驚きました。彼らの“得意”や“好き”と掛け合わせ、どう“楽しい学び”に繋げるかが大切だと思いました。

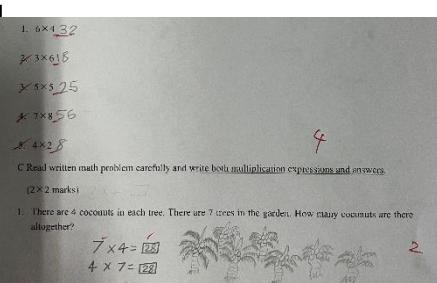
### 【視覚的に掛け算をイメージさせる】

掛け算が足し算や引き算とは違うということを教えるために、図を活用したり、ジェスチャーをしたり、実物を使ったりしました。掛け算は、“同じ数のグループが〇個ある”というイメージを 6 の段から 9 の段まで行いました。①問題を一緒に読む、②掛け算とわかる部分 (Each と書かれていたり、最後の質問文) を確認、③書かれている数とその数が何の数なのかを“図を使って”確認、④どうやって求められるのか、図と照らし合わせて式をつくる、⑤答え導く。このような手順で掛け算を教えていました。子どもたちは、文章から計算のイメージをすることがとても苦手のように見られ、図や実物の活用やジェスチャーはとても有効的でした。算数の板書は、図を見やすくするために模造紙に書いて貼る形をっていました。また、文章や数など色分けすることで、式を作りやすくしました。結果、「〇の段が〇ずつ増える」というイメージが理解できた子どもが多くいたように感じます。



8の段の授業。「 $8 \times 3$ 」を図を使って説明。8のかたまりが3つということを教えていました。その後は、8の段の増え方を図で確認しました。

足し算、引き算、掛け算が混ざった場合の授業。3つの違いを図やジェスチャーで熱演しました(笑) 文章を読んで、自分で理解できる児童は極わずか。足し算と混ざっている児童が多い。



掛け算のテスト用紙。①単純な九九の式は時間をかけねば答えられる児童が多い。②「=」を忘れる児童多数。③この児童は、ヤシの木を丁寧に描いて文章をイメージすることで、文章問題正解。(しかし、絵に時間がかかりすぎて最後まで行かず…。)